



パテック フィリップ創業175周年

パテック フィリップ ジュネーブ

2014年10月

ジュネーブとその希少な伝統工芸技術へのオマージュ ユニークピースまたは限定製作のパテック フィリップ創業175周年記念タイムピース 《希少なハンドクラフト》

マニュファクチュールパテック フィリップの歴史は175年以来、ジュネーブとの親密な絆なくしては語ることはできない。一方時計製作の歴史は、400年以上の昔から、さまざまな伝統工芸技術との密接な関係によって成り立ってきた。過去の時代、歴史の激流の中で高度な技術を持つ多くの職人たちが、コスモポリタンな都、ジュネーブへと移住してきた。そしてこれらの技術は、時計製作と並んで世界的な名声を獲得することになったのである。この遺産を未来に継承していくため、パテック フィリップは常に彫金、ギョシェ装飾、さまざまな七宝技術（クロワゾネ、シャンルヴェ、七宝細密画、フランケ、プリカジュールなど）、木象嵌、ジュム・セッティング、スケルトン技術その他を用いて自社のタイムピースのケース、プレスレット、文字盤を装飾するように努めてきた。これらの技術を用いたタイムピースへの需要がきわめて低下していた1950年代から二十世紀末の時期も、この努力は中断することがなかった。

1940年以来、パテック フィリップのオーナーであるスターン家は、希少な伝統工芸技術を代表する優れた作品の収集にも努めている。そして2001年にはパテック フィリップ・ミュージアムが開館し、一般公衆がこれらの卓越した作品を、十六世紀から今日に至る携帯時計の重要なコレクションと共に鑑賞できることになったのである。

しかしパテック フィリップ名誉会長フィリップ・スターン氏と息子のティエリー・スターン社長は、これらの傑作を生み出すために不可欠な伝統工芸技術を未来に伝えていくためには、ミュージアムに作品を展示しておくだけでは不十分であることを常に理解していた。技術を毎日実践していくことが不可欠であり、改良を加えつつ世代から世代へと継承していくべきなのである。こうしてビジネス・リスクを恐れず多大な投資が行われた結果、ジュネーブの伝統工芸技術への関心が呼び起こされ、精緻な装飾を加えられたタイムピースへの需要は少しずつ増加していった。伝統工芸技術を継承する最後の名匠たちを起用し、若い世代の職人たちに秘術を伝授させることにより、これらの希少な技術は、少なくともここ数年間は消滅の危機から救われたのである。その間も、ジュネーブの伝統工芸技術への人気は空前の高まりを見せ続けた。そして今日、愛好家、コレクターたちは、待望のタイムピースを手にするまで、これらを完璧に手づくりする職人たちと同じくらいの忍耐力を発揮して待たねばならない状況となったのである。

パテック フィリップは、創業175周年を記念するため、今日希少なものとなったジュネーブの伝統工芸技術へのオマージュであるユニークピースまたは限定製作の《希少なハンドクラフト》タイムピースをいくつか創作した。モチーフとしてジュネーブからの美しい眺望、とりわけ著名なレマン湖岸の船着き場が選ばれているのは、誠にふさわしい選択といえよう。1835年、亡命者アントワヌ・ノルベール・ド・パテックが居を定め、その4年後高級時計工房を開き、1851年、フランス人の天才時計製作者ジャン・アドリアン・フィリップを迎えて新たに《パテック、フィリップ社》と改称したのは、他ならぬジュネーブであった。創業以来、マニュファクチュールは常にジュネーブに忠実であった。1853年以後は、レマン湖を一望できるロース通りの建物に本社を置いた。著名なレマン湖の伝統的な帆船は、特徴的な大三角帆を持つことで知られている。レマン湖では毎年、ヨーロッパ最大の湖上ヨットレースとして知られる《ボル・ドール》が開催される。パテック フィリップ名誉会長フィリップ・スターン氏はヨットマンとしても知られ、長年にわたりレマン湖を舞台に活躍し、《ボル・ドール》ヨットレースでも多数の優勝を勝ち取っている。パテック フィリップ創業175周年を記念して特別製作されたユニークピースまたは限定製作の《希少なハンドクラフト》タイムピース40点あまりは、これらをテーマとしたモチーフを、さまざまな伝統工芸技術を用いて描いている。



歴史を創る40点あまりのマスターピース

パテック フィリップは、創業175周年の今年に先立ち、数年前から各分野最高の専門家たちを起用し、40点あまりのタイムピースを真の《希少なハンドクラフト》に昇華させた。こうして約20点の腕時計と、20点あまりのドーム・テーブルクロックと特製スタンド付の懐中時計が誕生したのである。いずれの作品も七宝、彫金、木象嵌、ギョシェ装飾、ジュム・セッティング、およびこれらを組み合わせた伝統工芸技術の真髄を最高度に体現した傑作である。

彫 金

彫金家が用いる鑿（たがね）や鑿（のみ）などの昔ながらの工具は、タイムピースの装飾技術として最も長い伝統を誇る彫金技術の歴史を物語っている。熟練した彫金家の細心を込めた丹念な手先の動きが、懐中時計のケースを光戯れる芸術作品に変身させる。最もよく用いられる彫金技術には線彫り、浅浮彫り、浮彫りなどがある。1789年にジュネーブでは200人ほどの彫金家が活動していたが、今日では10人あまりに過ぎない。

七 宝

七宝は卓越したパテック フィリップのタイムピースを装飾する方法として用いられてきた伝統的な方法であり、さまざまなテクニックを含むが、最も高度なものが著名な七宝細密画である。ジュネーブの特産品であった七宝細密画は、著名な大家による絵画作品を縮小し、驚異的なディテールで時計のケース表面に複製するためによく用いられた。このようなマスターピースの制作には数か月を要する。微細な筆を用い、珪砂（石英）を主成分とし、酸化金属を混ぜてさまざまな色合いを持たせた釉薬（うわぐすり）で何層にもわたってモチーフを描き、一層ごとに炉に入れて加熱する。クロワゾネ七宝は、息をのむように鮮やかな多色の装飾を得ることのできる方法である。厚さ0.5 mm～0.1 mmの金の細い帯をデザインにしたがって曲げ、これを下地となる釉薬の塗られた金属表面の上に配置し、いくつもの囲い（cloisons）を作る。各々の囲いの中に異なった色の釉薬を何層にも重ねて塗り、一層ごとに炉に入れて加熱する。シャンルヴェ七宝は、金属素材の表面を削り、削り取った部分に釉薬を施し、炉で摂氏800度以上に加熱する。異なった色の釉薬を色が互いに混ざり合わないよう塗り分ける点はクロワゾネ七宝と同様である。フランケ七宝は、あらかじめギョシェ装飾や彫金装飾を施した金属素材の上に半透明の釉薬を塗る七宝技術である。下地の放射状や波形の模様が光を受けて美しい効果を生む。パテック フィリップが導入した第5の七宝技術は、教会のステンドグラスを思わせるプリカジュール七宝である。プリカジュール七宝は金属プレートに透かし彫りを施し、半透明の釉薬で透かし彫りの部分を埋め、炉に入れて加熱することにより実現する。パイヨネ七宝は、薄い金や銀の装飾小片を埋め込む七宝技術である。装飾小片（paillons）は金箔などから鋼鉄製の打ち抜き工具を用いて切り取られ、モチーフにしたがって下地（通常は濃色の七宝）の上に配置される。その上から通常はフォンダン（fondant）と呼ばれる透明な釉薬を塗る。フォンダンは装飾小片を固定し、七宝の光沢を増すと共に、表面を酸化などから保護する役割も持っている（特に銀箔の装飾小片を使用した場合）。

グリザイユ七宝

グリザイユ七宝はルネッサンス期（十六世紀）にフランス・リモージュで現われたモノクロームの七宝技術であり、今日最も用いられることの少ない装飾技術のひとつとなっている。下地としては濃色の、多くの場合黒色の釉薬が用いられる。モチーフは白リモージュ（blanc de Limoges）と称される白色の釉薬をごく微細な筆あるいは針先を用いて描いていく。テーマの複雑さにもよるが、白リモージュは3～8回以上にわたって重ね塗りされ、その厚みにより下地の透過度が変わり、黒から白に至るモノクロームのデリケートな濃淡となって現われるのである。



ギヨシェ装飾

ギヨシェ装飾は、手で操作する機械を用い、金属表面に無数の曲線から構成される微細で複雑なモチーフを施す技術である。用いられるギヨシェ機械は旋盤に類似している。加工物は回転しつつ、同時にカムの働きにより規則的な動きを与えられることにより、連続した複雑な曲線模様を生み出す。パテック フィリップは自社にギヨシェ装飾部門を有しており、今から150年以上昔の完璧にメンテナンスされたギヨシェ機械を用いて比類のない出来映えのギヨシェ装飾を実現している。

木象嵌

木象嵌（もくぞうがん）は、さまざまな色と木目の木片からなる木のモザイクであり、ゴールドなどを埋め込むこともある（インサート）。文字盤の装飾として用いる場合、微細で豊かなディテールを生み出すために、木片のサイズはきわめて小さいものとなる。120種類以上におよぶさまざまな種類、色彩の薄い突板（つきいた）を素材とし、これを積み重ねてブロックとし、専用の薄刃の鋸で切り抜く。木片は長い時間をかけて、モチーフにしたがって組み合わせられる。1枚の木象嵌文字盤の制作には1か月を要する場合もある。

ジェム・セッティング

ジェム・セッティングは、さまざまな高度な技法によって貴金属表面を貴石で装飾する技術である。パテック フィリップは最高のジェム・セッターを抱え、自社でこの技術を行っている。パテック フィリップのユニークピースやハイジュエリーには、オーソドックスなグレイン・セッティング、ひとつひとつの作品がユニークピースとなるスノーセッティングまたはランダム・セッティング、作品の全面をおおうパヴェ・セッティング、さらには限られたジェム・セッターのみに許されるきわめて高度なインビジブルまたはミステリー・セッティングなどが使用される。パテック フィリップ・シールは、最高品質の貴石を用い、完璧な技術によりセッティングを行うことを定めている。

